

研究タイトル:

## 平安期〈歌語り〉の生成と受容



氏名: 玉田 沙織 / TAMADA Saori E-mail: tamada@toyota-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 和歌文学会, 中古文学会, 日本文学協会, 名古屋大学国語国文学会

キーワード: 和歌文学, 大和物語, 後撰和歌集, 日本文化, 翻訳

技術相談

提供可能技術:

- ・日本古典籍の書誌調査と目録作成
- ・英語を用いた学術交流
- ・平安文学や変体仮名(くずし字)に関する出前授業や講演

### 研究内容: 十世紀日本における和歌をめぐる語りの発生とその変奏

連綿と続く日本古典文学の歴史において、和歌は人々の心の拠り所であり続けた。近代に至るまで、和歌は幾度か画期を迎えるが、本研究が対象とするのは平安時代最初の隆盛期である。和歌は、『古今和歌集』により正統的な文芸としての地位が確立されたのちに、貴族社会において洗練され、制度化が進んだ。特に、『古今和歌集』成立前夜から次の勅撰集『後撰和歌集』の成立期に掛けては〈歌語り〉の時代とも呼ばれ、和歌の技巧が磨かれて歌ことばが開拓され、その結果生み出された歌々をめぐるあまたの物語が集積された。本研究は、これらの和歌とその物語が作られる過程、そして、受け継がれ、文化形成に寄与する過程の具体相を追究する。

#### ■生成

ここにおける「生成」とは誕生の謂であり、自然発生的な語感を重視している。当該期の歌や物語は無署名性を有し、一義的な意味での、単一作者による誕生や形成ののちに、読者の手元で新たな意味を見出され、再創造される。創作的営為が必ずしも特定の個人に帰せられるものでない点を重く見ている。

主に対象とする作品は歌物語『大和物語』である。この他、勅撰集『後撰和歌集』や、個人の和歌を一書にまとめた私家集を参照し、当該期の和歌に対する関心を考察している。

#### ■受容

現代に残る「梅に鶯」「紅葉に鹿」といった取り合わせは、和歌伝統において承認を得たのちに連歌や俳諧へも受け継がれ、諸芸術の表現へと広がり、今に至る。和歌は、日本文化に多大な影響を与えているのである。この観点については、十世紀に誕生した和歌をめぐる諸要素が場に応じて変換され、後代に受け継がれていくさまを考察している。

対象とする作品は多岐にわたる。たとえば、『後撰和歌集』などの歌集の注釈書や中世王朝物語、お伽草子が挙げられる。考察の際には作品の資料性を重視し、国内外の文庫に赴いて調査を行っている。目下、国文学研究資料館の共同研究に従事するとともに、科学研究費若手研究(B)において関連テーマを追究している。

#### ■その他

上記の他、日本古典文学の英訳、英語論文の日本語訳ならびに日本学術界への紹介といった、英語を用いた国際貢献も心がけている。室町期成立の『新蔵人』絵巻については米国の日本美術史研究者へのインタビューを行い、共訳者とともに日本語化してその視点を紹介した。また、AAS(アメリカアジア学会)においてはパネル発表を行った。

#### 提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	